

よくある質問

質問1；病院への入院にすべきでしょうか、老健施設へ入所すべきでしょうか？

答え；病気の診断や治療が必要な際は、病院への入院になります。介護やリハビリが主になる際には老健施設での生活機能の維持・回復を図るための訓練になります。病院は「医療保険」、老健施設は「介護保険」での対応になります。迷った際にはご相談ください。老健施設においても相談員が対応いたします。

質問2；老健施設は3ヶ月間しか入所できないとのことですがそうですか？

答え；原則はそうですが、年齢や全身状態、介護度によっては長期のリハビリ・療養を必要とする方については数カ月から数年単位の入所もあり得ます。「介護度5」「介護度4」の状態は長期療養の傾向にあります。ご家庭の状況にも十分に配慮し、相談の上で入所期間を決めていくことになりますのでご安心ください。

質問3；「介護度2」の評価では老健施設には入所出来ないと聞いたのですが、そうですか？

答え；それは間違いです。入所については色々な条件を考慮します。ご本人、ご家族の困っていることを検討し、多くの方策を検討し、老健施設への入所が最良の、または緊急の手段と考える際には「介護度1」「介護度2」でも入所の対象になります。

質問4；老健施設では病気の治療はしないのですか？

答え；確かに老健施設は病院ではありません。寝たきりにならないように介護・リハビリをとうして、自宅での生活が行えるよう訓練をします。しかし、発熱や痛みのあるごとに転院をするのもご家族の負担になりますので、かぜ、便秘、下痢や尿路感染、肺炎による発熱、腰痛・関節痛などの治療は行われています。

質問5；治療の必要な病気をもっている入所は可能ですか？

答え；「在宅酸素療法」を行っている患者さん、「睡眠時無呼吸」「がん（悪性腫瘍）」治療中の患者さんについても入所は可能です。「人工透析」の患者さんについては、相談の上で対応いたします。寝たきりにならないよう個々に対応しますので、迷った際にはご相談ください。

質問6；ショートステイとはどのような制度ですか？

答え；ご本人の健康状態により、長期の入所・入院の必要は無いのですが、ある程度のリハビリを継続して行ったほうが生活のリズムがつくると判断した際に用いられます。また、家庭の事情により自宅での介護ができない際にも利用することが可能です。

ですから、1泊2日、2泊3日、1週間、または定期的に週末の2～3日といった具合に、ご本人、ご家族の置かれた状況にそって対応いたします。

質問7；老健施設入所中に薬を減らす意義は何ですか？

答え；ご高齢の方は、10種類以上の薬を飲まれている方がみられます。加齢とともに肝臓や腎臓の働きは低下していきます。また、薬には副作用はつきものです。臓器の働きの低下した状態では、薬の副作用は現れやすくなります。さらに各臓器に負担をかけることになり、悪循環になります。薬の種類が多いと転倒・骨折の誘因にもなります。

質問8；「看取り」とはなんですか？

答え；いつまでも「元気で長生き」は皆の願いです。しかし、人の「命」には「寿命」というものがあります。この「寿命」をどのようにとらえるか、どのように迎えるかは大切な問題です。この人生の「寿命」のしめくくりを「看取り」と表現しています。

質問9；老健施設でも「看取り」を行うことができますか？

答え；ご本人、ご家族の希望に添って行います。ご家族の希望は、①病院で、最期まで、できる限りの治療をして欲しい。②最期は、自宅の畳の上で迎えさせたい。③施設で、穏かに最期を迎えさせたい。主にこの3つの希望に分かれます。ご希望にお応えしますが、常日頃から、このことについては家族で話し合っておくことが大切なことです。

質問10；老健施設への入所の手順はどのようにすればいいのですか？

答え；介護保険の手続きをお願い致します。そして主治医の先生に紹介状を書いてもらってください。そして、老健施設の地域連携室でご相談ください。手順についても地域連携室のスタッフが相談に応じます。お気軽にご相談ください。

質問11；通所でのリハビリには、個々人の都合や家庭の事情も考慮されますか？

答え；生活の機能の維持、向上のため日数、曜日等のご希望に添って計画されます。リハビリ、入浴、食事、余暇活動、健康チェック等、家庭での生活と調和のとれるようご希望に応じます。送迎があり、週に2日、3日等ご希望にそって計画いたします。

悩むことなく、

どんなことでもご相談ください。

施設のスタッフが対応いたします。